【追悼】

山田太一さんを偲んで

川崎市高津区に長らくお住まいであった脚本家の山田太一さんが、令和５(2023)年11月29日に御逝去されました。

数々のテレビドラマや舞台の脚本を手がける傍ら、小説家としても活躍され、人の心を丁寧に描いた作品で、多くの人に感動を与えていただきました。

また、多摩川を舞台としたテレビドラマをはじめ、川崎市内がしばしば登場するエッセーなど、同氏の作品には市民にとってなじみのある情景が多く描かれているとともに、川崎市名誉文化大使として本市のＰＲや魅力の発信に御尽力いただくなど、本市の文化芸術の振興に多大な貢献をいただきました。

川崎市立図書館においても、講演会での講師をたびたびお引き受けいただくなど、読書普及活動の推進に多くの御支援と御協力をいただきました。特に、平成25(2013)年開催の読書普及講演会では、「今ここで生きているということ」と題して、数人の詩人の詩などを紹介いただきながら、松竹時代の失敗談や本との関わり、「言葉」に対する想いなどを語ってくださいました。御本人のお人柄を表すかの様に穏やかな口調でありながら、とても強い意志が伝わってくるお話に聴衆は引き込まれていました。

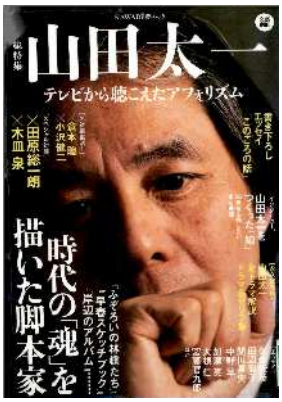
多くの「言葉」を残してくださった、これまでの御功績に対して感謝申し上げますとともに、謹んで心より御冥福をお祈りいたします。

山田太一さんに興味を持ったらこれを。

作品一覧はもちろん、インタビューや対談、オススメ映画・本の紹介など山田さんをつくりあげたものがわかります。

KAWADE夢ムック
『山田太一 -
テレビから聴こえたアフォリズム』

河出書房新社／編・発行（2013）



「私たちは本当のことから逃げて、それに近い言葉を使って生きているところがあるのじゃないかと感じているんですね。でも、それで生きやすくなっているのかもしれない。私たちは現実だけでは怖くて生きていけないんですね。」

「順調だけの人生はない。マイナスだと言われているものが、実はものすごく豊かなものを持っているのではないかという風に思うことはできないか、って思うのですね。マイナスと思っていたものを改良していくうちに、そのマイナスの良さみたいなものがつぶれていってしまう。無くなってしまう、ということもあるということを、もっといろんなかたちで語ってもいいじゃないかなと思うのですね。」

「決まり文句でかたづけないで、少し立ち入って考えなきゃいけないと思います。なるべく安っぽい言葉、僕も言っちゃいそうだけど、そういう言葉じゃないもっと踏み込んだ世界は、ただ周辺を見ていても、自分の考えだけでは無理なのではないかと思う。」

（平成25年講演会より）

ジェーン・スー講演会『私らしさは誰のため？』

多摩区文化協会・多摩図書館が共催する「第24回読書普及文化講演会」に、毎日新聞の人生相談や雑誌AERAの連載等で活躍中のコラムニスト・ラジオパーソナリティ、ジェーン・スーさんを講師にお迎えします！

日時　令和6年４月２６日(金)
　　午後６時３０分～午後８時
場所　多摩市民館　大ホール
　　（川崎市多摩区総合庁舎２階）
定員　９００名　定員を超えた場合は抽選。

講演会詳細ページ

申込み　令和6年4月5日（金）までに次のいずれかの方法で
インターネット：https://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000156888.html
往復はがき：〒･住所･氏名･電話番号・希望の人数(はがき１枚で４名まで)をご記入の上、
〒214-8570（住所不要）多摩図書館内「ジェーン・スー講演会」係　までお送りください。
問合せ　川崎市立多摩図書館　電話044-935-3400

読書のまち・かわさき
読書活動優秀団体に選ばれました

中原図書館で活動している『ジェリービーンズ』、川崎図書館で活動している『セロの会』が選ばれ、１１月５日に行われたかわさき読書の日のつどいで表彰されました。

ジェリービーンズ

セロの会

両団体とも、図書館でのおはなし会に工夫を凝らし、子どもと絵本との出会いの場をつくり、読書の楽しみを伝えてくださっています。これからも子どもたちと楽しいおはなし会を作っていっていただければと思います。

読書のまち･かわさき
フロンターレ選手と本を楽しもう！

佐々木 旭 選手　　© KAWASAKI FRONTALE

「フロンターレ選手と本を楽しもう！」イベントを開催しました。会場は昨年度と同様、グランツリー武蔵小杉で開催し、たくさんの方々にお越しいただきました。

今年度は、川崎フロンターレのクラブキャッチフレーズが「Exceed_」ということで「挑戦」を題材にした絵本、「はっきょいどーん」（講談社）と「どうするティリー？」（あすなろ書房）の２冊を佐々木旭選手に読み聞かせて頂きました。

中原
図書館

図書館で地震に遭ったら・・・

- 本棚やガラス窓から離れてください。動けない場合でも、持ち物などで頭を守り身を低くして揺れがおさまるまで身の安全を確保してください。
- 閲覧席にいる方は、机の下に入って身の安全を確保してください。
- エレベーターは利用しないでください。閉じ込められる恐れがあります。
- 停電になっても、一定時間、誘導灯や非常灯が点灯します。

＊あわてずに職員の指示に従い、落ち着いた行動をお願いします。

東日本大震災（2011年）の際、川崎市立図書館でも、多くの本が落下したり、設備類が壊れたりする被害がありました。
来館の際、“今、地震が来たら”と考えてみてはいかがでしょうか？

☆中原図書館では2月18日まで特集コーナー『震災を考える。』を設置しています。

かわさき図書館だより第63号
令和6年2月15日
編集・発行／川崎市立中原図書館
川崎市立図書館企画委員会
〒211-0063川崎市中原区小杉町3-1301
TEL044-722-4932（中原図書館）

川崎図書館	044-200-7011	大師分館	044-266-3550
幸 図 書 館	044-541-3915	田島分館	044-333-9120
高津図書館	044-822-2413	日吉分館	044-587-1491
宮前図書館	044-888-3918	橘 分 館	044-788-1531
多摩図書館	044-935-3400	柿生分館	044-986-6470
麻生図書館	044-951-1305	菅閲覧所	044-946-3271